

被災地支援へママさんボランティアコーディネーター派遣

～ 被災地に八王子社協職員を派遣（第2期） ～

この度の東日本大震災に対して、全国から多くのボランティアが駆け付け、東北3県（岩手・宮城・福島）の災害ボランティアセンターを経由したボランティア活動者は3カ月で延べ41万5千人に上っており、この活動の広がりや災害復興の大きな力となっているとともに被災者を勇気づけています。

この未曾有の災害に対して、ボランティアの受付窓口を担う被災地の災害ボランティアセンターは自らも被災しその対応に追われている中、駆け付けた大勢のボランティアと被災者からの膨大な支援の要請への対応が当初は混乱していました。

そのような状況に対して、日ごろから全国の各地域で、ボランティアの需給調整を行っている全国ネットワークを持つ社会福祉協議会（以下「社協」という。）では、とくに被害が甚大な東北3県の各縣市へ、全国から社協職員が応援に駆け付け、災害ボランティアセンターを稼働させ、ボランティア団体やNPO、志ある多くの人びとの協力を得て、被災者や被災地の支援活動に取り組み、これまでに延べ17,700名の社協職員が応援派遣されております。（6月10日現在）

八王子市社協では、4月に引き続き、6月13日（月）から18日（土）まで福島県相馬市災害ボランティアセンターに本会職員である松重香を派遣して、現地のボランティアのコーディネート業務の支援を行いました。



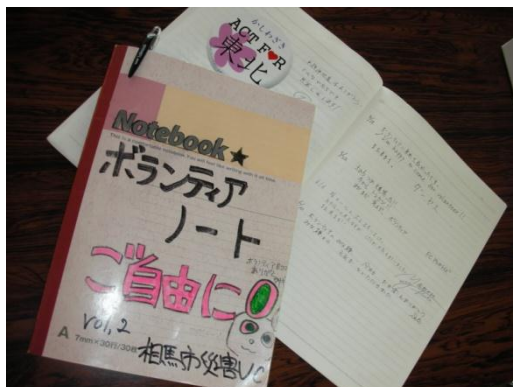
ボランティアを受け付ける松重コーディネーター



活動前の朝のミーティング風景

「やはり報道では伝えきれない悲惨な現状を見聞きました。特に、仮設住宅に転居された被災者の皆さんへの訪問調査では、まだ生々しい記憶を吐き出すように話してくださる方、すべて失くして何をしたいかわからないといった訴えをされる方等……。そのような中、災害ボランティアセンターにある

ボランティアノートは、日本各地から駆け付けてくださったボランティアさんからのあつく、そしてあたたかいメッセージで溢れています。長く厳しい復興への道のりですが、必ず復活すると確信しました。」とはっきりした口調で報告がありました。



また、現地のボランティア要請の内容は、土砂や家屋の片付けといった肉体的な活動から仮設住宅に入居したひとり暮らし高齢者の見守りや生活支援、心のケアといった個別的な専門的知識が必要な支援活動に変わり始めています。活動に参加する際は、災害ボランティアセンターのホームページなどからの的確な情報を入手し、必要な準備をしてから行ってください。そしてなによりも、復興の主役は被災者であり、ボランティアはサポーターです。受け入れて活動できることに感謝してくださいとのことでした。